

優秀賞

あたり前じゃない事

茨城県 日立市立日高小学校六年 梅津翔

ぼくの将来の夢は、大型トラックの運転手になる事です。五才の頃からその思いは変わっていません。産地直送の流れやニュースで見た事がある二〇二四年問題など物流について学びたい事があり、知り合いの運送会社にお願いをしてトラックに乗せてもらい、東京都中央おろし売市場に連れて行ってもらいました。

その日はすでにトラックには、小松菜、れんこん、水菜など茨城の農家さんが作った野菜が大量に積んでありました。大型トラックの全長は十二メートル、冷凍機の付いた荷台の長さは約十メートル。荷台の中を十度前後まで冷やし、鮮度を落とさない様に輸送するそうです。積込が終わって夜七時ごろ市場へ出て出発しました。一般道を走って途中から高速道路に入りました。大きな車体なので僕の目には、車線はギリギリで高速の入口のゲートにぶつかりそう

に見えました。夜の暗い高速道路を走っていくと、遠くに高そうビルとたくさん街灯が見えてきました。

トラックの運転席から見える景色は、乗用車とは全くちがって見えました。最初に神奈川県川崎の市場で荷物の一部を降ろし、そこから東京の市場へむかいます。ぼくはこの時とても眠くなっていました。ですが、流通についてしっかり見たかったので、必死に眠気とたたかいました。何より運転手さんの方が眠いだろうし、運転もつかれるだろうと思います。配送は時間も決められているので、数回の休けいを取ってまたすぐ走り続けました。東京都大田区にある東京中央おろし売市場に着いたのは十時三十分ごろでした。この市場は流通量が日本一の規模で、全国各地から野菜や果物が集まってくるそうです。場内に入るとたくさんの方が働いていました。

数えきれない程の荷物と何十台ものトラックやフォークリフト、ターレと呼ばれる運ばん車が所せましと走り回っていました。

運転手さんはここからフォークリフトに乗りかえ、荷物をすばやく降ろします。積荷を傷つけない様に鮮度が落ちないように注意が必要だそうで、走行中も荷降中も冷凍機で荷台を冷やしながらの作業をしているそうです。積荷を降ろし家に着いたのは夜中の三時ごろでした。

今回同乗させてもらって感じた事は、生活に必要な物が手軽に手に入るうら側では、生産者がいて運転手さんが運んでくれる。他の地域の食べ物が近所で買えるのも物流があってこそです。あたり前と想っていた事が、こんなにもたくさんの人達の努力でなり立っていた事にびっくりしました。

ぼくは物流というなくてはならない、人々の生活に役立てる仕事をしたいと改めて思いました。貴重な経験をさせてくれたトランスポート水戸の運転手さんに感謝と尊敬の気持ちを伝えたいです。

